

| | | | |
|-----------|---|------|---|
| 講義名 | キャリア社会学 | | |
| 科目区分 | 学部フリーゾーン | | |
| 担当教員 | 桑原 桃音 | | |
| 開講期・曜日・時限 | 前期 金曜日 4時限 | 授業形態 | |
| | 2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース/2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース/2019年度 人間社会学部 人間健康学科/2019年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース/2019年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース/2019年度 人間社会学部 観光学科/ | | |
| 履修開始年次 | 2年生 | 単位数 | 2 |
| | | 備考 | |

主題と概要

本講義では、まず、働き方の変化、多様な働き方について概観する。つぎに、働くことをめぐる個人と社会のかかわり・構造はどのようなものかを社会学の視点で読み解く。さらに、ライフコースの概念から職業キャリア以外のキャリアとは何かを理解したのち、就職した後の生活、引退後の生活をふまえながら、キャリアデザインについて学んだうえで、就職にとつての大学教育の意義について理解する。さいごに、働くことにかかわる変化とその課題について理解しながら、多様な労働者の働きやすさのために、あるいは多様な生活者の働きやすさのために求められる社会のあり方とは何かを検討し、考察する。

到達目標

- 「働くこと」をめぐる個人と社会のかかわり、およびその変化と課題について社会学の視点を用いて理解し、説明することができる。
- 将来の自分のライフコースを想定し、キャリアデザインについて理解したうえで大学生活の過ごし方を考え、計画することができる。
- 上記の知識と能力を用いて、現代日本社会においてキャリアにかかわる問題を検討し、働きやすさと生きやすさのために何が必要か考察することができる。

提出課題

- 授業前、もしくは授業時に課題や、Respon等を課す
- 不定期に課題、小テストを課す（予定：Responを使った双方向ディスカッションなどを課す）
- 中間レポートを課す（授業の進捗や受講生の様子を見て中間テストに切り替える場合もある）
- 最終レポートの内容については講義時に詳細を説明する。ポータルの説明内容だけでは書けないので注意すること。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

毎回の授業課題の講評・質問については、次回もしくは次回回の授業時に学生へ伝える。中間レポートや授業期間中の小テストについては第14～15回目の間に伝える。その講評内容を参考として最終レポートに活かしてもらおう。

評価の基準

- 平常点50%（講義内の課題の提出50%）
- レポート50%（中間レポートor中間テスト10%、最終レポート40%）

履修にあたっての注意・助言他

- Ryuka Portalへの課題の提出、Responの入力を積極的に行うことが評価につながる。
- 課題の未提出が評価にひびくので注意すること。
- 提出ができない場合は必ず締め切り前に教員に連絡をすること。
- 授業内でのResponの入力など積極的な授業態度が望まれる。
- 対面授業がもしある場合、教室内で他の学生が学習する機会、権利を侵害する行為（私語・携帯電話やスマホの使用・授業途中の入退出など）をする者はその日は欠席扱いとし、退出を指示することができる。

| |
|------------|
| 教科書 |
| . 使用しない。 |
| |
| |
| |
| |
| |

プリント資料及び参考文献

- 講義時に資料とレジュメをRyuka Portalを介して配布する。
- 参考文献は適宜指示する。インターネット上のサイトなども利用する。

【授業で使用する参考文献】

- 小川慎一、山田信行、金野美奈子、山下充著『「働くこと」を社会学する：産業・労働社会学』（2015、有斐閣）
- 阿部正浩、松繁寿和編『キャリアのみかた：図でみる1110のポイント 改訂版』（2014、有斐閣）

授業計画

（Web講義の状況によって内容が変わる場合がある）

- オリエンテーション
- キャリアデザイン：自分にあった職業とは何か
- 働くことのしくみ（1）雇用システムと賃金格差
- 働くことのしくみ（2）職場の人間関係と法
- 労働と社会変動（1）戦後～バブル経済の労働問題
- 労働と社会変動（2）現代の労働問題
- 働くこととタイパシティ
- 中間レポート（もしくは中間テスト）の説明
- 障害者雇用問題
- キャリアとジェンダー
- キャリアとLGBTQ
- グローバル化と「働くこと」
- ワーク・ライフ・バランス
- 働き方の変化、多様なキャリア
- まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

| | |
|-----------------------|--|
| <input type="radio"/> | ア：PBL（課題解決型学習） |
| <input type="radio"/> | イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| <input type="radio"/> | ウ：ディスカッション、ディベート |
| | エ：グループワーク |
| | オ：プレゼンテーション |
| | カ：実習、フィールドワーク |

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：指定された参考文献、雑誌・新聞記事などの資料に目を通す。
 毎回ではないが、授業内で指定された資料を収集したり、その資料について要約したりして予習として課す場合もある（資料はweb上で手に入れられるものにする）。（各30分）

復習：授業時に配布した資料、授業聴講時にとつたノートを見直すこと。さらに、授業で理解した知識を踏まえて、その内容について考察したことを文書化してノートに200字程度書くこと。（各30分）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

提出された課題やResponの内容について授業内で講評や解説を行う。
 Responを用いて授業内で意見を提示してもらい、それらについては次回以降にコメントや解説をする。
 受講生の知見や考えを深めるために動画やインターネットを用いる。

実務経験の有無及び活用

備考